

# 特別支援教育に関わる 学生・教員間の“CNS上の対話” による学びの分析

こども教育学科 准教授

太田容次



# はじめに

- 中央教育審議会(2015)はインクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援教育の進展と教員養成段階を含めた全教員の資質・能力向上を求めている。
- しかし、私立大学には、「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」と「学校現場や教職を体験させる機会の充実」にむけ、その活用が求められている附属特別支援学校が設置されていないなどの課題がある。



- 特別支援教育に関わる教員は、「教材教具・支援機器」などの指導・支援に直接役立つ情報や研修機会などのニーズ
- 小学校や特別支援学校の教員の多忙さからバーンアウトに至るモデル
- 「研修に参加したくても多忙等から難しい。」といった声



- 文部科学省(2018)は、**新学習指導要領の理念実現と教員の働き方改革**において**統合型校務支援システム**の導入を進めている。
- これは、一般市民等も利用している**SNS**(Social Networking Service)や**PSNS**(Private SNS:限られた者だけで交流を行うSNS)とは異なり、他のサービスとは独立して設置されているシステムで、教育委員会や学校教員の教育関係者のみがアクセス可能な、いわば閉じられたネットワーキングサービス(Closed Networking Service、以下**CNS**と記す)である。



# 本研究の目的

- 本研究では、特別支援学校教諭免許状取得希望の遠隔地間の学生や現職教員等との相互作用が、専門性向上を除く発話ログを要計量テキスト分析の手法により分析する。
- 特別支援教育に関わる養成段階の学生及び教員間のCNS上の相互作用が、能動的な学修・研修に与える要因を明らかにする。
- 本研究により、学習指導要領の理念の実現と教員の働き開きに向けた学統と合期待する。



# 研究の方法等

- 本研究は、2018年11月に設置され、A大学（10名）及びB大学（4名）の学生と教員等（13名）の遠隔地間の相互作用が継続しているCNSを対象
- 設置から2019年4月末までの全発話を分析することで、遠隔地間の学生と教員の相互作用を概観する。
- 発話データは、テキストファイルの情報をExcel形式で保存し、計量テキスト分析システムKHCoder（樋口2004、2014）を用いて分析を行った。樋口は計量的分析手法をテキスト型データに適用することの利点として、「信頼性・客観性の向上とデータ探索」を挙げている。
- 本研究は、京都ノートルダム女子大学研究倫理審査委員会により承認（承認番号（18-014））を受けている。



# 対象としたCNSの概要

- 本研究は、国立情報学研究所(2006)開発のCMS(Content Management System)であるNetCommonsを使用した。
- その特徴は企業開発のシステムや一般的なSNSではなく、統合型校務支援システムで活用されていることや、投稿された情報は不特定多数に拡散しないこと、登録者から発信された投稿の削除や閲覧制限などの情報管理が可能であることなどの信頼性と5000以上の国・地方の公的機関や学校での活用実績があることである。



# 発話データの分析結果

- 発話データを、計量テキスト分析システムKHCoderにより頻出語を分析した結果を示す。
- 用語間の共起関係には、Jaccardの類似性測度を使用し、その特徴は0から1までの値で関連が強いほど1に近づき、どちらの条件にもあてはまらない0-0対の影響を無視する特徴がある。また、用語間でお互いに強く結びついている部分をSubgraphといい、本研究では用語間の関連で自動的に検出されたSubgraphが8つ抽出された。







# 振り返りアンケートの内容

- 会議室利用（2018年11月～2019年4月）の学生及び教員を対象
- 共同研究室で告知し回答
- 回答期間：2019年4月20日～5月6日
- 対象学生 14名中13名回答
- 対象教員 9名中9名回答

## 新年度を迎えての振り返り

より良い研究室にするために協力してください。

あなたは学生？教員？どちらですか？

あなたは学生ですか？教員ですか？

- 教員等  福祉大の学生  ノートルダム 학생

数ヶ月使って一番心に残ったエピソードは？

早い人で11月ごろから使ってみて、学生と教員の皆さんで、いろんなコミュニケーションがありました。

印象に残っている話題を教えてください。

良かった！と思うことは？

この研究室を使って、実際に2回ほど京都に集まり、研究協議会をしました。その後のごはん会を含め、研究室にさんかして良かったと思うことを書いてください。

もっと良くするために！

研究室を設置して、試行錯誤ですが、いろんなやりとりを進めてきました。

実習中や卒業後も使える研究室にするために、改善すべきアイデアを教えてください。

期待すること

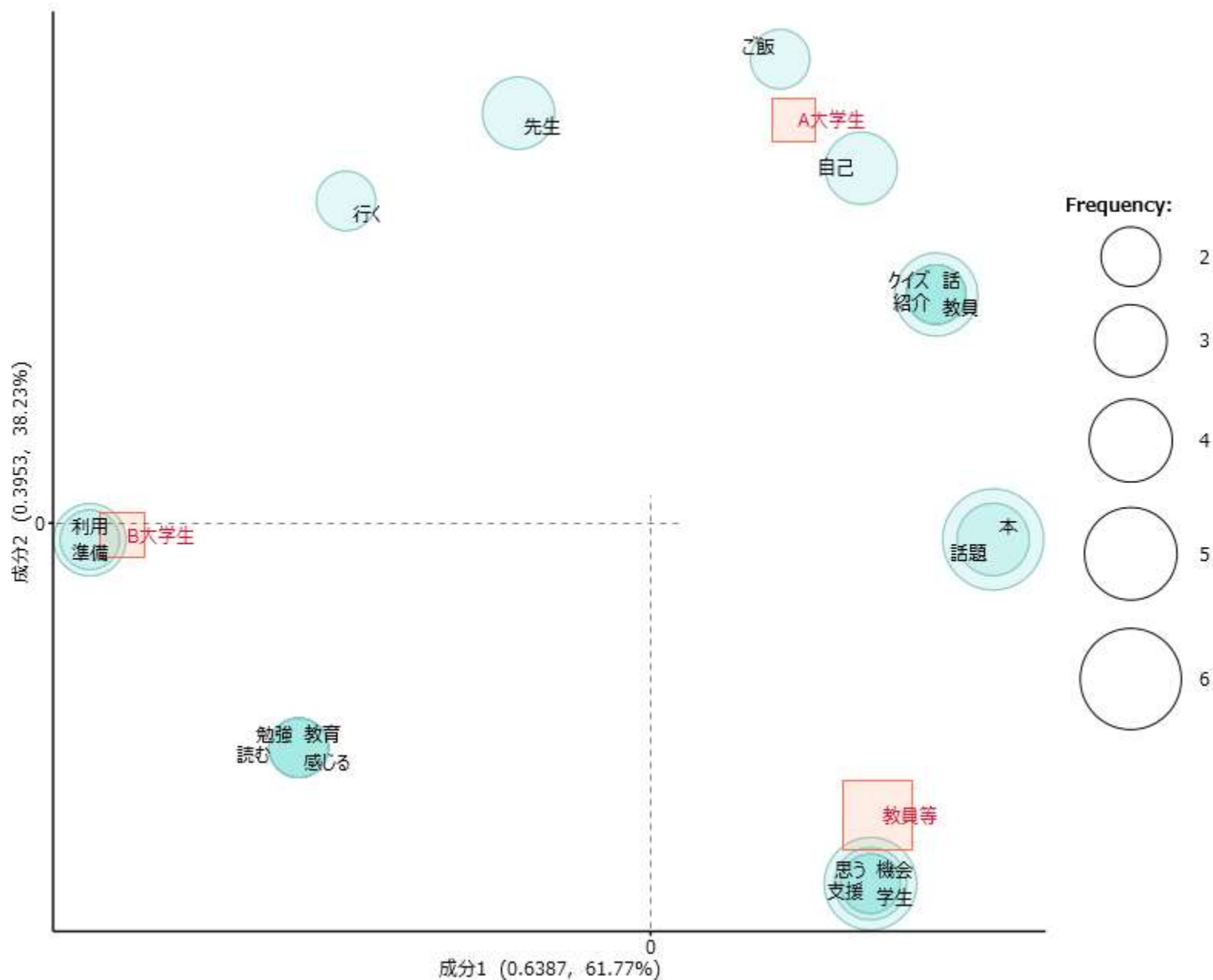
学生の皆さんは、卒業後を見据えて、

教員の皆さんは、自分のワークキャリアを考えて、

今後期待することを教えてください。

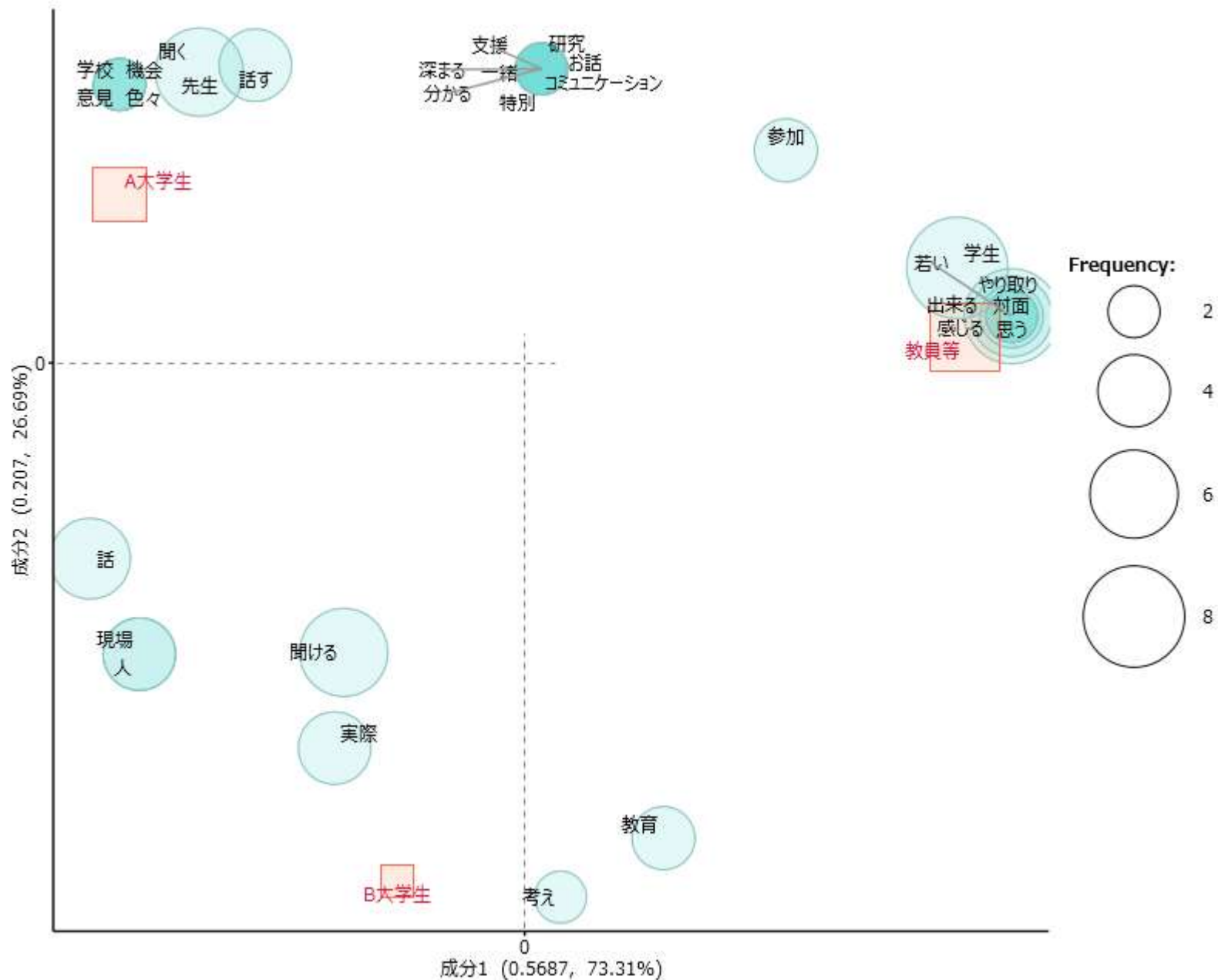
# 数ヶ月使って一番 心に残ったエピソードは？

- A大学の学生
  - 自己紹介、クイズ、ご飯、  
教員、話、
- B大学の学生
  - 利用、準備
- 教員等
  - 学生、支援、機会、思う
- 全体を通じて
  - 読む、感じる、勉強、教育、行く、  
本、話題



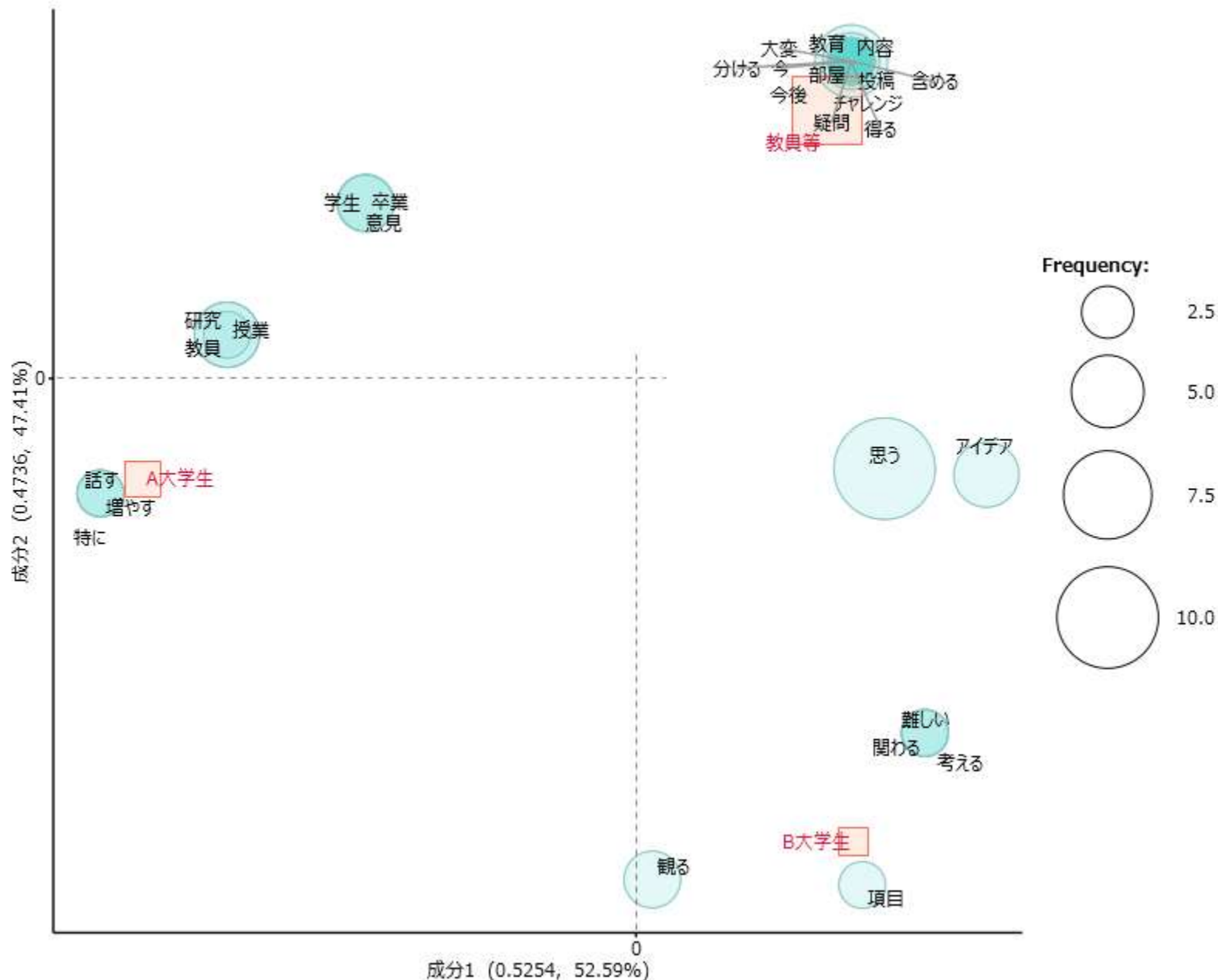
# 良かった！と思うことは？

- A大学の学生
  - 先生、話す、色々、機会、学校、意見
- B大学の学生
  - 教育、考え
- 教員等
  - 思う、感じる、やり取り、対面、若い、出来る
- 全体を通じて
  - 参加、コミュニケーション、研究、一緒に、お話、支援、特別、分かる、学生、聞ける、実際、現場、人、話



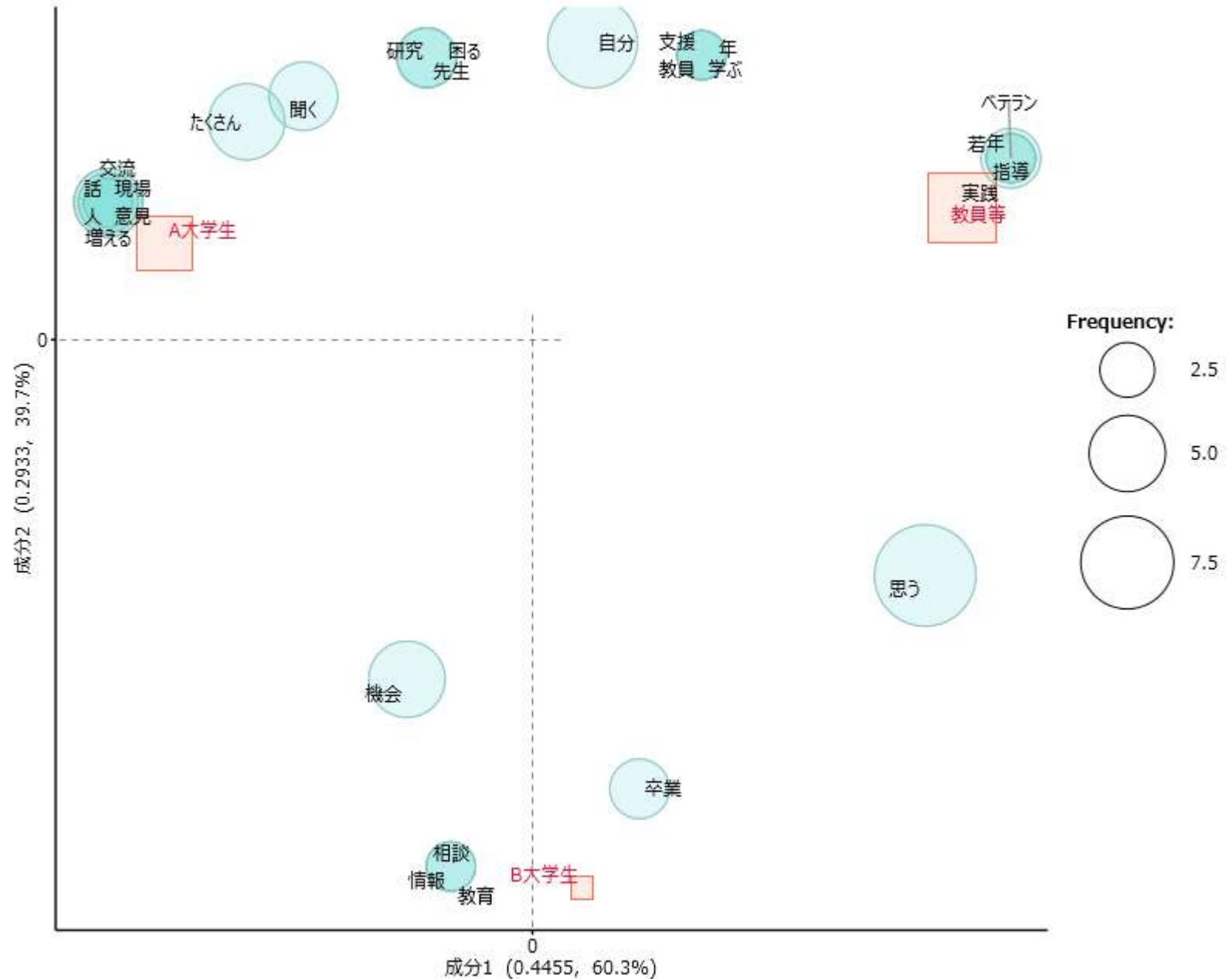
# もっと良くするために！

- A大学の学生
  - 教員、授業、研究、話す、増やす、
- B大学の学生
  - 関わる、考える、難しい、項目
- 教員等
  - チャレンジキッズ、今後、大変、部屋、分ける、疑問、得る、内容、教育、投稿
- 全体を通して
  - 学生、卒業、意見
  - アプリ、アイデア、観る



# 期待すること

- A大学の学生
  - 現場、人、交流、意見、話、増える
- B大学の学生
  - 情報、相談、教育
- 教員等
  - ベテラン、若年、実践、指導
- 全体通じて
  - 自分、思う、機会
  - 教員、卒業、先生、困る、研究、学ぶ、年



# 考察 相互作用を開始するにあたり

主な相互作用の内容は、

- 授業づくりや障害理解に関すること、
- 教育実習等に関すること、
- 特別支援学校・小学校に関することなど

A大で対面・学  
び・食事

アイスブレイク  
的な相互作用  
地域クイズなど

非対面での相互  
作用が促進

2018年12月（A大学の学生参加）と2019年3月（A・B大学の学生参加）の2回対面の研究協議会と食事の機会

“せんせい”の  
学びを考える

達成・研鑽を通じた  
教師の成長



- アプリ化の希望
- 過去の情報整理して観やすくする機能の希望
- 授業・悩み・雑談などテーマ別の会議室が必要
- 卒業後も授業実践の情報提供や意見交換の希望
- 実際に対面する機会を持つこと

教員等からは

- 後進を育成する以外に、自分にとっても得るものがあるやりとりをしたいとの希望





# まとめ

- 本研究で実施したCNSでの学びは、実際の学校や近隣の学校間の教員のコミュニケーションと同様に、促進されている。
- 学びを言語化することで、様々な相手と対話し、共感し、行動できる学びが可能である。
- 多様なニーズのある子どもに対して「情報量が増え、多様な視点で一人一人の児童生徒を見守ることができ、その内容を指導や所見で活用できる。」ことは、インクルーシブ教育システムの構築や共生社会の実現に向けて、Society5.0時代の教員には非常に重要な資質能力（コンピテンシー）といえる。
- 本研究に関する詳細は以下を参照されたい  
京都ノートルダム女子大学学術機関リポジトリ  
<https://notredame.repo.nii.ac.jp/>

